

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 27 日現在

機関番号：23702

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2013～2016

課題番号：25671020

研究課題名(和文) ‘個から地域へ’ 展開する保健師の思考過程に着目した公衆衛生看護実践モデルの開発

研究課題名(英文) development of the public health nursing practice model focusing on public health nurses' thought process development from individual- to community-based

研究代表者

山田 洋子 (YAMADA, Yoko)

岐阜県立看護大学・看護学部・准教授(移行)

研究者番号：50292686

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、公衆衛生看護実践のコアとなる内容とその特質を抽出し、個から地域へ展開する保健師の思考過程に着目した公衆衛生看護実践モデルを開発することであった。文献調査及び聞き取り調査により、個に向かう支援、地域に向かう支援、個と地域を連動させた思考と行動が整理された。個と地域を連動させた保健師の思考の特徴として、目の前にいる個のニーズから潜在しているニーズを判断していた。判断の内容は、現在は保健師が把握していない潜在している個のニーズが地域に存在する可能性や将来的に地域に問題が出現する可能性といったように、異なる時間軸で個と地域を連動させて思考していると考えられた。

研究成果の概要(英文)：This study aimed to abstract the core contents of public health nursing practice and their features and develop a public health nursing practice model that focuses on the public health nurses' thought process development of public health nurses from individual- to community-based. Based on a literature review and interview survey, the care for individuals and community and thought and action to integrate the two were found. A feature of public health nurses' consideration that integrated both of them is that they assessed potential needs from the individuals' needs that are in front of them. The contents of the judgment show the possibility that the individuals have potential needs in the community that public health nurses do not grasp yet and that some problem is occurred in the community in the future, which suggests that the nurses integrate the individuals and community by different time bases.

研究分野：地域看護学

キーワード：保健師 思考過程 個と地域の連動 公衆衛生看護実践モデル

1. 研究開始当初の背景

公衆衛生看護は、コミュニティを対象とし、コミュニティを構成する個人・家族・集団に看護の知識技術を駆使してかかわるとともに、それらの人々の健康に良い影響を与えるしくみづくりにもかかわり、コミュニティ全体の健康レベルの向上を目指す、看護専門職の活動である。研究者らは、2009年より大学地域看護学教員の教育力向上を目的としたファカルティディベロップメント(FD)に取り組み、公衆衛生看護の実践の根幹となる地区診断・地域診断の教授方法を取り上げ、経験豊かな地域看護学教員が何を大事にしてどのように工夫して教育しているのかを出し合い、検討を重ねてきた。その結果、地区診断・地域診断の教育は、アセスメントの手順や知識のみを強調するのではなく、背景にある考え方を体系的に教授する、すなわち、公衆衛生看護の理論を教授すること、具体的な保健師の実践事例を活用しながら、アセスメントに終わらず、活動の展開方法を考える力を養うことが重要であることを確認した¹⁾。

しかしながら、公衆衛生看護の理論について、あらためて日本の公衆衛生看護学テキストを概観すると、海外の公衆衛生看護実践モデル(Community as Partnerモデル²⁾)と他の学問分野の理論を引用した記述が中心であり、日本の保健師の実践に関する研究論文の引用はほとんどみられない。このことは、日本における公衆衛生看護学の教育が、海外の理論と他学問分野の理論に依存しており、日本の保健師の実践に基づいた理論化が遅れていることの現れであり、日本独自の公衆衛生看護実践の理論化はまだ発展途上にあると言える。

そこで、日本の保健師の実践に基づき、直接的対人援助からコミュニティ全体のしくみづくりへ発展させる思考過程に着目した公衆衛生看護実践モデルを開発し、公衆衛生看護の理論化を目指すことが必要であると考えた。そして、作成したモデルを、学士課程における公衆衛生看護学教育へ活用できるものとする、さらに、行政、学校、産業及びその他の領域での公衆衛生看護実践者にとって、実践指針ともなりうるものとする必要があると考えた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、日本の保健師の優れた実践事例を既存の文献及び聞き取り調査により収集し、公衆衛生看護実践のコアとなる内容とその特質を抽出すること、そして、経験豊かな学士課程の地域看護学教員及び公衆衛生看護実践者による検討を経て、直接的対人援助からコミュニティ全体のしくみづくりへ発展させる思考過程に着目した公衆衛生看護実践モデルを開発することである。

3. 研究の方法

まず、公衆衛生看護実践に関連する既存の理論・モデルを検討し、本研究で作成するモデル像を明確にした。そして研究1では、日本の保健師の実践活動が詳細に記述されている文献として保健婦雑誌・保健師ジャーナルを選び、2000年～2013年の14年分を対象として優れた実践事例を選定した。選定基準は、個から地域へ展開する保健師の思考が読み取れる事例であり、コミュニティレベルの成果が明らかになっている事例とした。記述内容から、活動における保健師の思考と行為を抽出し、実践のコアとなる内容とその特質を導出し、公衆衛生看護実践モデル原案を作成した。

研究2は、研究1の結果を地域看護学教育研究者、並びに公衆衛生看護実践者に提示し、グループインタビューにて意見を聴取した。

次に研究3として、研究1で明らかになった結果を精練する目的で、研究2で得た意見もふまえて、優れた実践を行い成果をあげている実践者への聞き取り調査を行った。研究1は行政保健師の活動が主な対象であったため、それ以外の公衆衛生看護活動について調べることにした。当該活動について、保健師が、どのような考えで、どのような援助・働きかけを行ったか、その中で大事にしていた考え方は何か、活動の成果について、活動開始から経過に沿って聞き取った。

以上のように段階的に研究を進めた。

【倫理的配慮】

研究2、研究3については、研究者の所属機関の研究倫理審査部会等の承認を得て実施した。研究趣旨を各調査対象者に十分説明し、協力への同意を得て実施すると共に、個人情報保護等の事項を遵守した。

4. 研究成果

(1) 研究1：文献調査

分析対象文献は24件であった。これらの活動において解決しようとした健康課題は、未熟児・障害児の在宅療養支援、乳幼児健診未受診者対策、高齢者の虐待予防・認知症予防、精神障害者の支援体制づくり、ひきこもりへの支援、自殺予防、HIV/AIDS対策、中小規模事業所の健康管理などであった。

分析対象とした活動において、個と地域を連動させる保健師の思考がどのように展開しているか、個と地域をどのように関連させて捉えているか、個と地域をどのように関連させて介入しているのかを検討した結果、個に向かう支援の特徴として12、地域に向かう支援の特徴として9、個と地域を連動させたアセスメントと評価の特徴として10の内容が導出された。表1～3に示す。

表1 個に向かう支援の特徴

1. 個に真摯に向き合い、寄り添い、信頼関係を築く
2. 保健師を身近な支援者として認識できるようにする

- 3.対象者とつながりを持つために様々な手段を駆使する
- 4.対象者が豊かに社会生活を営むことを追求する
- 5.対象者個々の自己決定を支える
- 6.対象者の思いを受け止め自己肯定感をもてるようにする
- 7.対象者が主体的に役割を果たすことを支える
- 8.対象者と相互に影響し合う人も支援の対象とみなす
- 9.対象者の支援において必要な関係者（他職種、住民）と協働する
- 10.集団を対象とした事業においても個の支援を並行して行う
- 11.既存事業では解決できない問題に対して個別支援で対応する
- 12.個の支援を内省し、活動の原動力とする

表2 地域に向かう支援の特徴

- 1.個々のニーズに即した活動や事業を創り出す/創り変える
- 2.個々のニーズを根拠に関係者の連携体制/地域ケア体制を構築する
- 3.当事者の主体性を促し問題解決能力を高めるためのグループ育成支援を行う
- 4.関係機関が役割を認識し、自らの問題として取り組むように促す
- 5.地域ケアに寄与する人材を育成/確保する
- 6.当事者/地域住民/関係者の力を活かして地域のケア体制をつくる
- 7.個別支援を組み込んだ支援体制をつくる
- 8.全住民を対象とし公共性/継続性/予防を重視した事業/しくみをつくる
- 9.地域全体への波及効果を保証するために実態把握と周知の同時施行や試行的事業を実施したりする

表3 個と地域を連動させたアセスメントと評価の特徴

- 1.個別の事例から、地域ケアシステムの課題かどうかを検討する
- 2.個別事例の問題の背景から、家庭やそれを取りまく地域に多様な問題の存在を検討する
- 3.個々の事例と統計データ、政策、文献などの情報を照合し、コミュニティの課題と優先度、支援方法を明確化する
- 4.個々の事例に直接関わり、信頼関係を築きながら、個とコミュニティの実態を把握すると同時に、個の支援提供の機会とする
- 5.日常の保健師活動の中で、全数把握できる機会を検討する
- 6.個別の課題解決に関わる関係者一人一人の認識から、組織的な解決の必要性とそのための方を判断する
- 7.保健事業がニーズに対応しているか、その解決につながっているかを、個別事例から判断し、そのニーズに対応する次なる取り組み展開を検討することを繰り返す
- 8.目の前の問題を抱えた個だけではなく、常

- にその後ろにいる同様の問題をもつ潜在事例を想定する
- 9.個に向き合う使命感と、そのための地域ケアの創造・刷新への使命感を認識する
- 10.個別事例への専門職としての対応能力を向上していくことの価値を認識する

(2)研究2：地域看護学教育研究者・公衆衛生看護実践者の意見聴取

地域看護学教育研究者 12 名を対象に、グループインタビューを行った。意見は、1.“個から地域へ”展開する保健師の思考をあらわしたモデルになっているか、2.内容や構成に過不足はないか、3.構造について改善・修正が必要な箇所はあるか、4.本モデルの有用性はどうか、以上の視点から聴取した。

加えて、保健所または市町村のリーダーの立場の保健師、あるいは実践経験 10 年以上の経験豊かな保健師、計 5 名を対象にグループインタビューを行った。文献調査結果を提示し、保健師の思考の特徴を表しているかどうかについて、経験に基づいて実践活動の具体的な事例を語ってもらい、意見を聴取した。

これらの結果は、提示した内容については、保健師の思考の特徴があらわされているとして理解が得られた。特に、個と地域を連動させた思考の内容が重要でありこの部分を明確にする必要性が示された。しかし、モデルの活用については課題があることが示唆された。また、保健師は、保健活動を説明する抽象概念として「地域」という用語を用いているが、そこには保健師の中でも明確にされていない複数の意味が含まれること、保健師の思考過程において「個」と「地域」をつなぐ概念が存在する可能性があることが示唆された。

(3)研究3：実践者への聞き取り調査

研究1の文献調査および地域看護学研究者からの紹介・推薦を受けて対象とする活動を選定した。事業所1名、学校2名、診療所2名、NPO1名の計6名の保健師・看護師・養護教諭にインタビューを行い、5名を分析対象とした。

聞き取った内容から、個に向かう支援の内容、地域に向かう支援の内容、個と地域を連動させた思考と行動を整理した結果、概ね文献調査の結果を包含する内容であった。

個と地域を連動させた思考と行動として、「把握した個の現状から地域で解決すべき課題を明らかにする方法として実態調査を選択する」「個のニーズから地域に共通するニーズを判断しそのニーズを充足するための資源をつくる」「個のニーズを充足させることを通じて構築した支援体制を整備・恒常化させる」「問題の深刻化を予防するための支援体制上の課題、顕在化していない将来的な支援体制上の課題を見出し改善への働きかけを行う」「組織・地域への個人の帰属意識を活かして地域に介入し個の意識・行動の

変容を図る」「ニーズを有する個を支援する者への支援を通して地域の価値観を醸成する」「関係職種・関係機関との支援体制づくりのために個別支援実績を活用した方法を編み出す」「個別支援の過程において、連携する関係職種の力量形成を行う」が確認できた。また、支援の基盤となる価値・信念に関わる内容として「同様のニーズを抱える人々の集団を広く対象とする」「個をエンパワメントし社会の理解の促進・価値観の転換を図る」「未開拓の課題への取り組みを継続する」「研究的な取り組みにより支援の成果を高める」が確認できた。

「個」と「地域」を連動させて活動を展開する保健師の思考の特徴として、目の前にいる個のニーズから潜在しているニーズを判断していた。判断の内容は、現状で保健師が把握していない潜在している個のニーズが地域に存在する可能性、並びに将来的に地域に問題が出現する可能性といったように、異なる時間軸で「個」と「地域」を連動させて思考していると考えられた。

以上のように、モデルの要素となる公衆衛生看護実践のコアとなる内容とその特質は明らかになったが、モデルとして図式化し説明すること、並びに教育や実践に活用可能なものにするのは今後の課題である。

文献

1) 牛尾裕子, 松下光子, 飯野理恵: 学士課程看護学基礎教育における地区診断の教育方法-大学地域看護学教員が重視する教授内容と教育上の工夫の分析から-, 日本地域看護学会第15回学術集会講演集, 92, 2012.

2) エリザベス T. アンダーソン/ジュディス・マクファーレイン編, 金川克子・早川和生監訳: コミュニティ アズ パートナー地域看護学の理論と実際(第2版), 医学書院, 2007.

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[学会発表](計2件)

(1) 牛尾裕子, 山田洋子, 塩見美抄, 佐藤紀子, 細谷紀子, 石丸美奈, 松下光子, 宮崎美砂子, 北山三津子: 保健師活動における「個」と「地域」の概念 - 保健師の語りの分析から - . 日本地域看護学会第19回学術集会, 2016年8月27日, 栃木.

(2) Yoko Yamada, Yuko Ushio, Mitsuko Matsushita, Mina Ishimaru, Noriko Sato, Noriko Hosoya, Misa Shiomi, Misako Miyazaki, Mitsuko Kitayama: The Details and Characteristics of Public Health Nurses' Thinking throughout the Process of Expanding Activities from an Individual to Community. The 6th International Conference on Community Health Nursing Research, 2015.8, Seoul.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

山田 洋子 (YAMADA, Yoko)
岐阜県立看護大学・看護学部・准教授
研究者番号: 50292686

(2) 研究分担者

牛尾 裕子 (Ushio, Yuko)
兵庫県立大学・看護学部・准教授
研究者番号: 00275322

佐藤 紀子 (SATO, Noriko)
千葉県立保健医療大学・健康科学部・教授
研究者番号: 80283555

石丸 美奈 (ISHIMARU, Mina)
千葉大学・大学院看護学研究科・准教授
研究者番号: 70326114

(3) 連携研究者

松下 光子 (MATSUSHITA, Mitsuko)
岐阜県立看護大学・看護学部・教授
研究者番号: 60326113

塩見 美抄 (SHIOMI, Misa)
兵庫県立大学・看護学部・准教授
研究者番号: 10362766

細谷 紀子 (HOSOYA, Noriko)
千葉県立保健医療大学・健康科学部・准教授
研究者番号: 60334182

宮崎 美砂子 (MIYAZAKI, Misako)
千葉大学・大学院看護学研究科・教授
研究者番号: 80239392

北山 三津子 (KITAYAMA, Mitsuko)
岐阜県立看護大学・看護学部・教授
研究者番号: 70161502